

言葉を大切にしたい学校づくり

鳥取市立気高中学校

気高中学校では、新学習指導要領の重点である「言語活動の充実」について「言語環境の整備」から始めようと考えています。教職員自らが授業改善や人間関係づくりにおいて「言葉の大切さ」を意識し、生徒の自尊感情を高める指導を心がけています。



◆「授業改善」のポイント

◇「学ぶ意欲」の工夫

・どのような切り口で子どものやる気に火をつけるか。

◇「分かる授業・分かりやすい授業」の探求

・難しいことを、いかに分かりやすく教えるか。生徒の立場に立って考える。

◇「考えさせる授業」の創造

・自分で考える方法を身に付けさせているか。

教え込み中心の教師主導型の授業からの脱却をめざし、『発問をしぼること』を共通実践中です。無駄や無理のない発問は、生徒自ら「自分でやってみよう」という気持ちを高めています。

◆人権についての教育の実践

◇「豊かな生き方」をめざす

「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」
～文科省「第二次とりまとめ」の人権教育の目標より～

この考え方を柱にして、生徒の生き方に関わる人権学習を教育課程に位置づけ、全校体制で取り組んでいます。自分自身を振り返り、在り方や生き方について考える機会を大切にしています。

○実践例：「家族について考える～認知症の理解～」

3世代同居が多く、複雑な家庭の事情を抱えた生徒も少なくないという地域の実態から、よりよい家族関係を築くために、外部指導者を招いて全校で講演を聞きました。その後はロールプレイなどを通して高齢者への接し方について考え、振り返りを行いました。「感謝の気持ち」と「言葉かけ」が重要であることを学びました。

◆心を育てる学校図書館の充実

◇「読書の習慣化」を図る

朝読書では、生徒も教師も真剣に本に向かいます。読書意欲を高めるような図書館だよりを作成したり、図書委員会が積極的な呼びかけをしたりしています。



◇「読書環境」を整える

学びをサポートするために蔵書の充実に力を入れたり、地域の方に読書ボランティアを依頼したりしています。

平成21年度に鳥取県図書館教育研究大会の開催校になり、本年度は読書活動の優秀校として全国表彰されました。本に親しみ言葉を大切にする姿が日常的に見られます。

校内研究で「言語活動の充実」を上げている学校は多くありますが、児童生徒の学習活動をどうするかという視点で考えられている内容が多いようです。学習場面だけでなく、生活場面や心を育てる場面において、教師自らが「言葉の大切さ」を振り返ることは重要です。部活動の活性化や不登校数の減少にもつながるという視点で捉えてみると、児童生徒に学力の定着を図り、意欲を育てる基本は「教師の言葉」から始まるのではないのでしょうか。